

No.011

練馬稲門会 練稲 Press

ごあいさつ

練馬稲門会会長
荻野 隆義



練馬稲門会会員の皆様には日頃から会の運営につきご支援とご協力を頂き、誠に有難うございます。新型コロナウイルスの感染の収束が見通せない中、皆様には何かと不自由で窮屈な生活を強いられ、気持ちの晴れない日々を過ごしておられることと存じます。

ご承知の通り早稲田大学ではこのコロナ禍に対しいち早く関係者の安全を最優先する姿勢を鮮明にし、授業のオンライン化を進めるとともに卒業式、入学式を始め公式行事の一切を取りやめました。校友会も大学の方針に従い主要行事の自粛措置を継続しており、練馬稲門会もこれに準じて今日に至っております。

年明けに予定していたニューイヤーコンサートについては開催を中止し、翌年に延期することを決定しました。当会にとって象徴的なこの行事は第15回の節目となる演奏会でもあり、何としても開催にこぎつきたいと願っていたのですが、中止の決定はまさに苦渋の決断でありました。演奏の交響楽団共々次回に向けて希望をつなぐことといたします。

コロナの挑戦が始まってから間もなく1年になります。この間世界各国でワクチンと治療薬の開発が急ピッチで進められていますが、仮にその供給が開始されたとしても、人々が完全にコロナからフリーとなるには5年はかかるだろうという話を、先頃高名な大病院の先生からうかがいました。いわば「コロナとの共生」です。マスク、手洗い、うがい、三密回避、ソーシャルディスタンス等の所作ばかりでなく、リモートテレワーク、在宅勤務等の仕事のデジタル化は今後「新常态」として定着するのではないかと思います。そこで危惧されるのは人々の絆とかぬくもりとかの、人と接することでしか得られない社会的関係が希薄化するのではないかということです。練馬稲門会としてもこれから世の中の情勢の変化に対応しながら、絆を保つための工夫を模索していかなければなりません。

ところで皆様は「永楽倶楽部」をご存じでしょうか。大隈侯が設立にかかわった由緒ある早稲田OB中心の社交クラブですが、先日その会報が送られてきました。編集後記に「永楽倶楽部より練馬稲門会のほうが会費も安いし、よほど活発に多彩な活動を展開している」という会員の声が紹介されています。大変驚くと同時にわが練馬稲門会がそれだけ評価されていることに誇りを覚えた次第です。

また、早稲田スポーツがこのところ好調なのもうれしい限りです。東京六大学野球では劇的な逆転本塁打で早慶戦を制し、10シーズンぶりに46回目の優勝を飾りました。ラグビーも大学選手権2連覇に向け視界は良好、箱根駅伝でも早稲田らしい走りを期待したいところです。いくつもの競技で母校の全国レベルでの活躍を応援できるのも早稲田ならではの、ほかの大学ではこうはいきません。スポーツを通じて改めて早稲田に学んだ絆と喜びを味わいたいものです。

練馬稲門会会員の皆様には当分の間、ご不便とご迷惑をおかけしますが、何卒事情ご賢察頂きよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

第15回ニューイヤーコンサート コロナ禍のため順延

来春に予定されていたニューイヤーコンサートはコロナ感染防止のため再来春に順延となりました。その経緯や次回に向けた意気込みなどをニューイヤーコンサート推進チームリーダーの田辺攻さんに聞きました。



—新春恒例のメイン行事が中止、順延となりました。

田辺 第15回の節目のコンサートであり万全の準備をして臨もうとしていただけに本当に残念です。コロナの感染の収束が見えない中で高齢者が多い聴衆のリスク、会場の収容人員、ワセオケの練習不足等々を勘案すると、開催には無理があると判断し中止を決定しました。

—次回の演奏会までにワセオケとは何か企画はありますか。

田辺 今年のコンサート売り上げの中から20万円を練馬区のローズガーデン整備費用として寄付しました。来年5月にそのオープニングセレモニーが行われますが、その際早稲田大学交響楽団の精鋭メンバーが弦楽四重奏の記念演奏を行います。光が丘の「四季の香ローズガーデン」です。詳細決まりましたら改めてご案内しますのでご来場をお待ちしております。

—次回の演奏会の予定はどうなっていますか。

田辺 2022年1月15日(土)、練馬文化センターにて第15回ニューイヤーコンサートを開催することで会場予

約を済ませました。次回もワセオケとともに総力を挙げてすばらしい演奏会したいと思います。曲目も節目の年に相応しいものとするよう既に指揮者の曽我大介さんと打ち合わせています。

—第15回を迎えるまでにはいろいろな困難があったと聞いていますが。

田辺 スタート当初から中心メンバーであった柳洋子さんの回顧談によると、練馬稲門会の地域貢献の一環として荻野会長からコンサート開催の提案がなされたそうです。賛否両論があり、「どうせ続かない」との冷やかな反応もあったようですが、やるからにはそれなりの覚悟と犠牲が必要と会長以下数名で何度も何度も計画を練り直し発足にこぎつけたとか。会場申込のため1月5日の早朝から寒風の中を並んだことも。チケットの捌きにも相当の苦勞が伴ったようです。最近では割と順調に売れるようになりましたが、それまでは会員の皆さんに強力なお願いをして買っていただいたりしたようです。

今では練馬稲門会と早稲田大学交響楽団の新春恒例の行事として、地元練馬区ばかりでなく広く知られるようになりましたが、ここに至るまでには先人のそれこそ筆舌に尽くせぬ苦勞があったことを忘れるわけにはいきません。

次回の再開演奏会はこれまでの集大成という意味でもぜひ成功させたいと念じています。皆様のご協力を切にお願いいたします。

新ロゴ制定と記念タオル作成について

副幹事長 小野 惣一

あるようで無かった練馬稲門会のロゴ。これまで会報の表題として使われてきた「練馬稲門会」の毛筆は、元当会顧問で第13代早稲田大学総長の小山宙丸先生の揮毫になるもので、当会のシンボルマーク的なものとして知られてきました。

ロゴとはシンボルマークとロゴタイプを組み合わせたもので、多くの企業や組織体はコーポレート・アイデンティティー(CI)の一環としてこれを使用しています。ロゴを定めることにより外部に対しては企業に対する認知度と親近感を、内部に対しては組織としての一体感を生み出す効果が期待できます。

そこで今回、練馬稲門会を象徴するようなロゴを作成することを考えました。ロゴタイプは小山先生の毛筆を活かし、ロゴマークは早稲田の「W」をアレンジしたデザインで練馬稲門会らしさを表現できないか。苦心の拳句デザイン心のある妻に相談したところ、京成スカイライナーの「S」をベースにした「W」を描くアイデアが提案されまし

た。知り合いのデザイナーに頼んでたき台を作り、事務局の皆さんにも何度もご意見を伺い、完成したのがこのロゴです。「W」の文字の左側は頭を垂れる稲穂のイメージ、右側はこれから先の大きな発展をめざすイメージです。

新ロゴは今後、練馬稲門会のHPや封筒ほか名刺等の各種印刷物に使われる予定です。

なお、新ロゴの制定に合わせこれを記念してロゴ入りのスポーツタオルを作りました。これも皆さんの知恵とご意見を集約して完成した自信作です。コロナ禍で活動の自粛が続く中、練馬稲門会の皆さんの絆をつなぎたいとの思いを込めました。いろいろな場面でご活用いただければ幸いです。



波瀾万丈の青春

松本 誠



昭和36年都立武蔵高校3年時、ワセダを目指して政経、法、商を受験するもさっぱりわからず……一浪。早稲田予備校で頑張る。1年後の昭和37年、第二商学部入学。床屋の息子が、ワセダに学ぶ！ 親父は、とても喜んだ！ 41年商学部卒という事で「ヨイショ会」を学部クラスで作リ、現在も続いている。

「国際問題研究会」というやや社共系のサークルに加入、マルクス経済の勉強やナショナルリズムなどに傾倒。現練稲の小島忠夫君と出会う。大学管理法反対、授業料値上げ反対など、また安保闘争の一端でデモなどにも参加。大学3年時はケネディ大統領が暗殺され、その年の秋の文化祭にはケネディ関連の資料をアメリカ大使館などから入手、シンポジウムなど企画開催。同時に「ワセダ速記研究会」なるサークルにも同時加入。ここでは同じく練稲メンバーの山田興太郎君と同級生。こちらのサークルは女性も多く、まあ気楽なお楽しみサークルでした。普

通の会話などは速記で記録。但し、正式文章に記述し直すのが一苦労。

両サークルとも、たまにOB会など開催、お互いの生存を確認。大学のゼミは「経済史研究」。こちらも生存確認ゼミOB会・ゴルフ会を時々開催。

卒業直前の1月、学生運動激しく学校閉鎖、当時はワセダでもない学生(?)らが学内を占拠。大隈銅像の前は大看板で卒業式もなく、いわば大荒れ大学でした。そのため最終試験はレポート提出。

入社予定の企業(日本コンクリート工業)から在京学生にアルバイト募集。私の人生はそのアルバイトがきっかけで大きく展開。入社後、現在の家内ともそのアルバイト縁。入社前に親友と約1か月の「台湾一周貧乏旅行」(往復とも貨物船の3等船室。当時1ドル360円。台湾人の親日感は大きく、未だに当時の知り合いと交流。「ワセダ」の気概を持つての初の海外旅行。現地で日本語教育を受けた台湾人と一緒に酒を飲みながらの「都の西北」……感動でした。要所では「大陸反攻」というビラ、看板中国と台湾の金門海峡戦争などの直後のため緊張感があふれていました。

「早稲田で学んで波風受けて……」「人生劇場」の明文です。また「都の西北」の「集まり散じて人は変われど仰ぐはおなじ理想の光」。ワセダだからよかつた！

(昭和41年商)

エンタテインメントの原点

原田 豊



1984年、商学部「森藤ゼミ」卒業時

2016年7月、豊島園カリノにて行われた練馬稲門会総会に出席したことから始まり、その1年後に同会場で開催された総会においてはまさかの舞台監督指名、そしてその後は、会場をココネリホールに移しての新春の集いや総会はずべて私が責任者となり、今ではイベント推進チームリーダーとして役員を拝命いただくという怒涛の私の練稲歴。

思えばこんな流れとなったのも、中学以降は三社祭で神輿を担ぎ、早大学院ではラグビー部に入りながら1年で挫折、その後の帰宅部部長拜命(笑)、そして商学部入学後、つるむ学院生から離れ、全国から集まる早大生と付き合ってみたと思ひ、学院生がいない早稲田大学映画研究会に入部したが、ヨーロッパ映画だロシア映画だとエンタテインメントを軽んじ哲学的で芸術性を追求していた同研究会に違和感を感じ、3年時に渉外幹事となり、それまで目を向けていなかった邦画界へのアプローチとして、東宝と交渉し、映画『八甲田山』の森谷司郎監督の講演会を早稲田祭で企画運営、卒業後はホリプロに入社など、人と人が繋がる祭「エンタテインメント」に携わってきたからに他なりません。

特に早稲田祭の講演会開催について

は、私のその後の人生に大きな影響を与えたのでした。当時私がアルバイトしていたラジオ日本イベント事業部の早大OGが、講演会実現のために東宝宣伝部の方を紹介してほしいとの私の依頼に対し、快く早大OBである富山省吾氏(前東宝映画代表取締役社長、当時は宣伝プロデューサー)を紹介してくれました。同氏は、私たちの依頼である高倉健主演『海峡』の監督で、大先輩である森谷司郎氏の講演会の実現を各方面と調整し叶えてくれました。このときほど早稲田の繋がりをありがたと思ったことはありません。

この講演会は1982年11月の早稲田祭で行われたのですが、その2年後の1984年12月に監督は53歳という若さでこの世を去られました。その当時私はホリプロの新入社員でしたが、会社において世田谷祐の東宝撮影所で行われた監督の葬儀に参加させてもらいました。会場で富山氏と早稲田祭の話の懐かしみつつ、「同じ業界にいるのだから、いつか一緒に仕事をしたいね」との言葉をいただきました。その言葉は私に、エンタテインメントの世界でやっていけるという自信をもたせてくれ、今の私の原動力ともなっています。

私は、人と人が繋がること、繋げることを多くの先輩方に教えていただき、今の練稲においては先輩方のみならず後輩の皆も繋がる・繋げを大切にしているという、「これこそ素晴らしい早稲田の伝統だ！」と日々実感しています。

これからも、微力ながらコロナに負けずに繋げるイベントを数多く行っていきたいと思います。

(昭和59年商)

田中駒男先生の想い出

石川 益巳

モンゴル史が結ぶ数奇な縁

川合 未来



早稲田大学高等学院を卒業する前に、大学各学部の先生による「学部説明会」があった。法学部の先生が登壇された。「法学部には、不勉強な学院生は来てほしくない。希望するならば、きちんと勉強するという志をもって志望してほしい」との説明があった。学院生一同、シーンとなった。難関の大学受験を突破して入学する学生と違って、学院ではあまり勉強していないということとを、みんな自覚している。

次に、政治経済学部の田中駒男先生が登壇された。先生は開口一番、「学院生は優秀です。我が政治経済学部には、是非多くの学院生に志望していただきたい！」とおっしゃられた。会場の雰囲気は和んだ。これが、田中先生と私の出会いだっただけだ。

政経学部3年から、田中ゼミに入ることでできた。当時の田中ゼミは、「早稲田の政経のTDK(田中ゼミ、伊達ゼミ、小松ゼミ、柏崎ゼミ)」と言われる人気ゼミの一つだった。志望者が多かった為、先生は定員上限の20名を入れてくださった。この中に、女子ゼミ生が二人いた。

ゼミは、毎週夕方行われる。日暮れ時、うさぐさい男だけが定員MAXの20人、パンパンで先生の研究室にこもるのは、雰囲気がいや、女性がいやというものは、雰囲気がいや、女性がいやというものは、田中先生も、女子ゼミ生に対しては、いつも孫をみるような優しい微笑みで接してお

られた。我々男子ゼミ生も、沼袋の先生のご自宅に泊めていただいたりした。

田中先生は、3年前にご逝去された。有志が集まり、先生の研究室があった3号館で「偲ぶ会」を挙げた。田中ゼミは昭和33年開設で、ゼミ生総数522名。卒業後の住所把握が難しかった為、口コミで参集を呼びかけたが、全国各地から300名以上のゼミ生が集まった。参集が叶わなかった方からも、「後日お墓参りをしたい。場所を教えてほしい」との声やお香典が、たくさん寄せられた。濃厚で誰からも敬慕される先生のお人柄が偲ばれた。

昨年、私の長女が結婚し、新居にしたのは沼袋。先生の「自宅の近くだった。不思議なご縁を感じる。」

還暦間近の歳になった今、私が親しくお付き合いをさせていただいているのは、このゼミ、早稲田のサークル、学院の間である。2年前、練馬稲門会に入っていたが、新たに稲門会の方々との付き合い合いが加わった。

集まり散じて人は変われど、仰ぐは同じ理想の光。

お前どこ、そうか早稲田か、まあ飲む。練馬稲門会の先輩の方々は、在学中の面識はもろろ無いが、重ね来し歴史尊く、連綿と引き継がれてきた早稲田精神というか、早稲田ということで通じ合える何かがある。とても楽しく、ありがたく、かけがえの無いお付き合いだと思

う。早稲田に入れて、本当に良かった！

(昭和59年政経)



高校時代、体調を崩された担当教師の代理として、数か月世界史を教えてください。た若い先生がいらつしやいました。

残念ながら世界史はついに得意になることはなかったのですが、授業の合間に挟まれる歴史の小話や、先生が実際に世界を旅行して見てきた遺跡や文化、海外の話はとても楽しく、進学先候補に外国語や外国文化を専攻する大学を入れたほどでした。

結局、様々な価値観を持つ人に会えそうだという理由で早稲田を選び、今ここで筆を取るに至ります。

入学後も引き続きそういった方面に興味があったので、「モンゴル史」という授業を取りました。

確か20名もいないくらいの小さなクラスでしたが、数回目の授業で、冒頭の代理の先生が同じ授業を受けていることに気づいたのです。

気づいてから何度か様子を見て、やはりあのときの先生だと確信し、お声掛け

しました。

先生は大勢の中の一人だった私を覚えてはいらつしやいませんでしたが、教師と学生だった我々が、今学生同士として再会した数奇な縁をととても懐かしんでくださいました。

その後、何度か授業のメンバーでモンゴルにまつわるご飯会を開いてくださった記憶もあります。

不思議な再会も嬉しいものですが、先生の、好きなものを幾つになっても並び直そうという姿勢に、私も卒業後もそうでありたいとぼんやりながら思ったことも忘れていません。

残念ながら今はもう連絡先はわからなくなってしまうましたが、モンゴルの話題に触れるとき、二文という場所の懐の深さを語るとき、必ず思い出すエピソードです。

ところで、練馬稲門会の活動、なかなか時間的に厳しく参加できないままコロナによって益々お会いできない状況になってしまいました。

次またお会いできますとき、もしモンゴルや都内のモンゴル料理に詳しい先輩方がいらつしやいましたら、ぜひお話しさせていただきたいです。

そんな機会が再び来ることを楽しみにしております。

(平成20年二文)



我が故郷・佐賀～母校・佐賀中学を誇る～

華岡 正泰

私の本籍は墓のある和歌山、父が九大の教室に居た関係で生まれは福岡、その父が今の佐賀大に転じた為、幼稚園から旧制佐賀中学を卒業して学院に入るまでを佐賀で過ごした。

謂わば私は三つの故郷を有するが、問われれば迷うことなく「故郷は佐賀」と応じている。それは故郷・佐賀が吾等が建学の祖・大隈重信侯の出身地で、侯が数々の偉業を成し遂げられていること、そしてその歴史風土の中に生まれた名門・佐賀中学を卒業し、それを誇りにしているからである。

私は昭和23年(1948)、旧制・佐賀中学5年を卒業した。65回生だった。太平洋戦争の真っ只中、中学の指導方針には「総員軍人を志願スベシ」とあった。

陸海軍将官の先輩は数え切れず、太平洋戦争でも特殊潜航艇で真珠湾に散った広尾彰大尉が佐賀人なら、最後の連合艦隊の古賀峯一司令長官も先輩だった。

中学4、5年からは陸軍士官学校、海軍兵学校へと進んでいったが、毎年合格者数全国トップを争っていた。一クラス50人、一学年5クラス250人が4年修了時には確実に一クラス以上は減っていた。

我々の学年からも陸軍幼年学校、海軍兵学校予科生徒に進んだが、私は陸幼に失敗、海軍を決めたものの1～3月の早生まれの入学は秋以降とされた為、望みは果たせずに終わってしまった。

然し敗戦で皆中学に復学、再会を喜び、それぞれ新しい道へと進んだのだった。

佐賀中学には“栄城会”と称するOB会があり、東京に

は“関東栄城会”と我々同期の“関東栄城二三会”の二つがあり、それぞれ年一回開催される。

身体が動く者は全員参加、佐賀弁丸出しで奇声を上げている。母校を誇つての何よりの楽しみである。稲門会同様の固い絆である。

今、母校は佐賀西高と呼ばれ偏差値県内一位を保っているが、早稲田佐賀が出来た故か、今年の早大進学は10名。九大40、佐賀大30、あと阪大、京大、東大と国立指向となっているようで、一抹の寂しさを感じている。

学院を卒業して70年。今でも毎年クラス会をやっているが、丁度25年前、中学・学院を共にした友人と、地元の稲門会々長をやっていた弟の協力で、クラス会「大隈侯墓参旅行」を実施した。

クラスの略半分20名が夫人同伴で参加した。大隈侯生誕地、記念館参観、墓参。有明海魚貝類での昼食。長崎へ移動して夜は卓袱料理。翌日グラバー邸、ハウステンボスを見て解散の旅程。今でも話題にのぼるクラス会だった。

友人も弟もすでに亡くなったがまだまだツテはある。私が元気な内に練稲の皆さんを大隈侯墓参、自慢の佐賀へ案内したい。私の夢である。
(昭和29年商)



大隈侯生家記念館前にて

古今亭志ん吉さんの真打昇進が決定!

10月3日に落語協会から来年秋の真打昇進者4名の発表があり、練稲会員の古今亭志ん吉さん(H14文卒)が見事、その中の1名に選ばれました。

江戸落語は「前座」「二ツ目」「真打」と三階級に分かれており、「真打」はその最高位とはなっていますが、実際にはこれでやっと一人前の落語家として認められることになり、「師匠」と呼ばれて弟子がとれるようになります。

志ん吉さんは、元々は落語家ではなく役者志望だった(落語界入りは26歳)こともあって、ご本人曰く「落語を朗読や一人芝居のような演劇の一ジャンルと捉えて、これを自分の個性としていきたい」と話しておられます。

昇進は来年9月21日、昇進後は真打披露興行として、昇進者4名がその日から50日間分担して都内各寄席を回ることになるそうです。

その時期になりましたら落楽会(落語を楽しむ会)から日程のご連絡を差し上げますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

(落語を楽しむ会世話役:土屋記)



サークル活動でより楽しい練稲ライフを!!

2020年10月現在、18のサークルと3未来塾がそれぞれ活発な活動を行っています。

お好きなサークルを探して、交友の輪をさらに広げてください。

令和2年10月現在(サークル推進チーム作成)

サークル	部長	卒年	連絡先	開催予定日
1 ゴルフ部会	栗原 英明	S40	090-4246-1124	毎月(日は未定、1、2、7、8月休会)
2 歴史ウォーキング部会	八巻 孝夫	S45	080-5082-0756	七福神巡り他、年6回程度(6月~5月、9月~11月) 夏冬休み
3 旅行部会	藤沢 礎	S49	090-4391-7665	年間3回程度
4 麻雀部会	喜々津和夫	S43	090-1841-4772	奇数月の最終金曜日、年2回早慶戦、年2回近隣会、年1回熱海泊
5 囲碁部会	田辺 攻	S43	090-4604-8297	毎月第3土曜日、合宿、オール早稲田囲碁大会、春・秋豊島対校戦
6 グルメ会	持ち回り		事務局 070-3526-4179	年2回程度
7 テニス部会(硬式)	武田 幸雄	S44	090-4434-3472	例会、準例会(毎月各1回)、夏合宿(軽井沢)、他の稲門会との交流戦
8 エッセイ同好会	照山 忠利	S45	080-1700-1050	偶数月(原則第3土曜日)
9 ワセダスポーツを楽しむ会	小島 忠夫	S41	090-4606-4552	箱根駅伝、野球早慶戦、早明ラグビー、早慶レガッタ
10 カラオケ部会	土屋 正孝	S45	090-1425-3664	毎月・第3月曜日PM4:00~7:00、ジュニア部会年1回程度(土日)
11 山歩き会	石村 毅	S43	090-3292-2161	毎月1回山歩き・第1木曜日定例会
12 写真クラブ	岡田 吉郎	S35	090-5777-9215	毎月1回
13 酒楽会	森 正治	S46	090-4361-6656	月末の最後の木曜日(年5回)
14 釣り愛好会	松浦 康夫	S48	090-5507-5100	例会年4回(4、6、10、11月頃)、オフ会=随時
15 青年部会	小野 惣一	S60	080-5385-5114	主要共通行事のない月の第3水曜日(年6回程度)
16 料理を楽しむ会	仲山 典美	S40	080-4357-8665	2か月に1回
17 フォークソング愛好会	越智慎二郎	S49	080-4126-6735	毎月第1火曜日(PM1:00~3:00)
18 落語を楽しむ会	土屋 正孝	S45	090-1425-3664	毎月1回(寄席鑑賞)
未来塾	講師	卒年	連絡先	開催予定日
19 未来塾講演会	テーマ毎		事務局 070-3526-4179	3か月に一度開催
20 PC相談室	山田興太郎 平田慎一郎	S41 S45	事務局 070-3526-4179	毎週木曜に開催
21 傑作時代・名作歴史小説を読む会	野原 茂樹	S51	事務局 070-3526-4179	3か月に一度開催

注1) イベント募集案内、活動状況報告はHP (<http://nerima.waseda-info.com/>)、メルマガ、サークル通信をご覧ください
2) 現在は新型コロナ対応で活動自粛中のサークルも多いため、実際の活動日程は直接各サークルにご照会下さい。

お悔やみ申し上げます 森友 幸照さん(昭和28年法卒) 谷川 一郎さん(昭和31年商卒)

開設16年になるHP。ここには当会の最新の活動がすべて集約されています。

<http://nerima.waseda-info.com/>

編集・発行: 広報チーム

照山 忠利 鈴木 奎三郎 岡田 吉郎 橋口 奈保

発行所: 〒176-0014 練馬区豊玉南3-24-18 国産自動車交通本社ビル 練馬稲門会事務局 TEL.070(3526)4179 FAX.03(4243)2759

いしざき内科

富士街道沿い 石神井庁舎南
石神井町3-30-20 TEL.(03)6913-3925

胃内視鏡検査
大腸カプセル内視鏡検査
超音波(腹部・甲状腺その他)

(賛助会員: 石崎 淳朗)